

「秋の歌」

堀江 眞三人（2期）

- | | |
|--|--|
| 1、青空高く澄み渡り
甲子園は秋の中
若者たちの夢のあと
強い香りに気がついて | 千切れた雲が流れゆく
伝統の地にそびえ立つ
歓声今は静かなり
見つけた垣根の金木犀 |
| 2、みかんは熟れて色が付き
早くもテレビは錦秋の
日本の四季の鮮やかさ
人目に触れず庭の隅 | 赤い柿売る出店あり
山の便りを伝え来ぬ
秋に優れるものは無し
ひっそり香る金木犀 |
| 3、日暮れは早く暗くなり
家路を急ぐ足並みに
高い香りが漂いて
花の命は短かけれ | 駅の前だけまだ明い
薄着に冷える夜の風
探せば軒先金木犀
香り尽くせや金の花 |

〇〇新聞の「秋の歌」に応募した作品ですが、惜しくも入選ならず佳作3品の中に入りました。

選考者の選評は「大変きれいに仕上げてありますが、きれい過ぎて生活の苦勞、哀歎、斗争、社会観と言った人間の生活感情が聞こえて来ません。もっと人生の現実を歌い込んで如何」だと。

私は秋特有の自然の中に自分を置いて、季節の美を歌い込んだつもりです。時には人間臭さを離れて見てもよいのでは。